

# まちづくり 提言書

第4回時点案

令和8年2月 日

令和7年度水戸市市政モニター

# 目 次

まちづくり提言書について . . . . . 2

## 【第1部】

私達が理想とするまちの姿 . . . . . 3

## 【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組 . . .

### (資料)

市政モニター活動内容 . . . . .

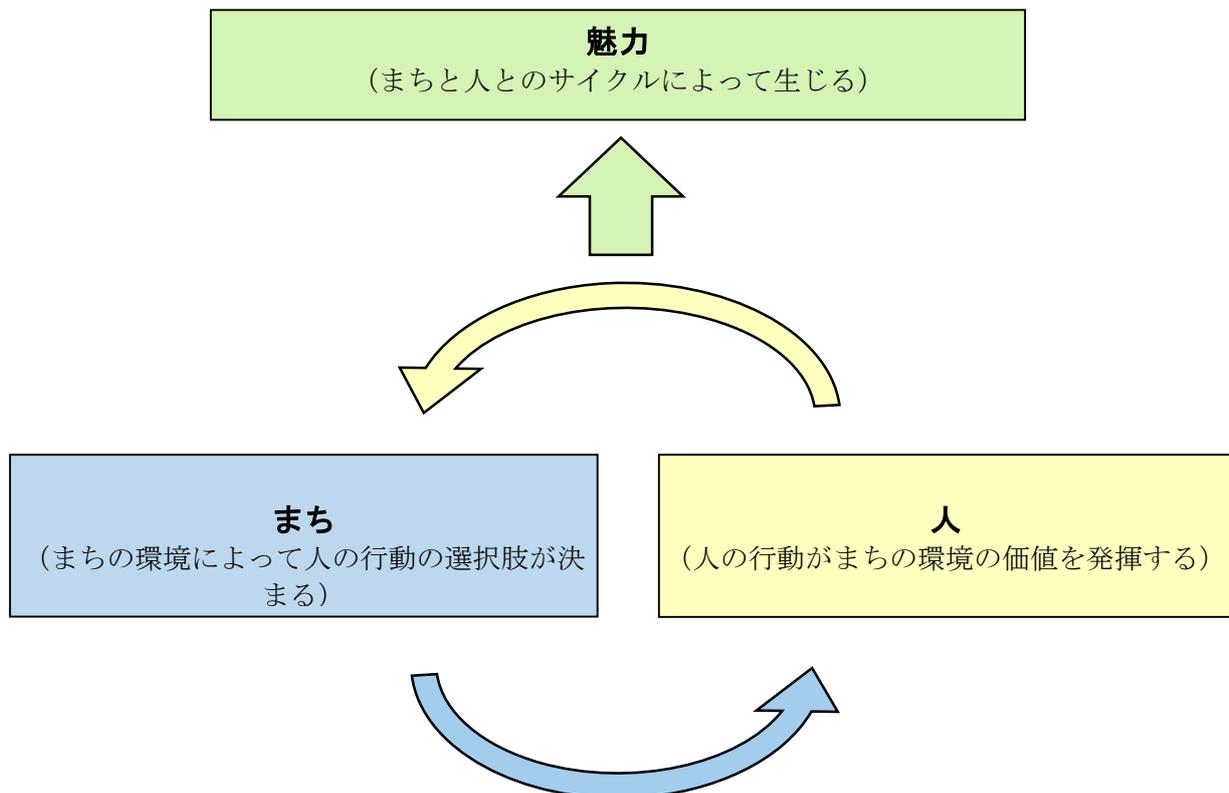
市政モニター名簿 . . . . .



# 【第1部】 私達が理想とするまちの姿

## 第1部の見方

本提言書では、社会全体を「まちの環境」（自然、インフラ、地域資源などの物質的なもの）と「市民の活動」（市民の生活や、まちを形作っていく市民の行動）の循環構造と捉え、その循環によって「まちの魅力」が生じるものとしています。これに従い、理想とするまちの姿を記載しています。



## 【提言1】自然あふれるまちで活気ある教育と安心して育児できるまち

### ・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、こどもたちが自分の望む教育を受けることができ、子育てがしやすい環境が整っているまちです。

教育面では、市内在住のこどもだけでなく、近隣市町村のほか東北地方の南部や首都圏などの県外からもこどもが通いに来る、市を代表する国公立・私立小中学校があります。この小・中学は、駅周辺を中心市街地にあり、市外からもアクセスしやすく、市郊外にある小・中学校はコミュニティバスが走っており通いやすいです。これらの学校では、生物やビオトープなどの生態系を研究するため、顕微鏡や地域に根付いた図書館など調べられる環境があります。国立・市立・私立小学校と設置区分はされているが、水戸市は、市内全ての小・中学校の生徒に対して無償貸出タブレット使用や学校給食調理場の利用など、前例のない教育に予算拡充を計画しています。

東北地方のイメージ：山や川などの自然に囲まれた環境、教育事情に関しては情報が閉鎖的な部分がある

首都圏のイメージ：商業施設が充実、人工的な自然は存在。受験戦争。

水戸：都内にアクセスしやすい。自然がたくさんで子育てしやすい。

### ・市民の活動について

まず、子育て面では、はみんぐぱーく、わんぱーく、図書館が子育てを重視した設備やサービスが存在しています。例えば、資格を持つ育児コンセルジュが常駐して一時預かりサービスを提供していたり、子育て講演会や復職や税金セミナー（国税庁による）が開催されています。

この図書館の一時預かりサービスは、ファミリーサポートと比べて、事前予約不要で、当日の先着順です。育児に行き詰った親御さんがその日その時の気分で利用することができます。待ち時間は、子供や大人が読みたい本をゆっくり探したり、大人が読書できる時間も確保できます。その間、子供は、目の届く同施設の託児部屋にて、コンセルジュの先生と子供は遊ぶことができますため敷居が低く、大人子供共に気分転換することができます。対象年齢は、1～6歳（理想は生後10か月～）で一回につき6人まで入室でき、預かり時間は1時間15分。加えて、図書館には子供が勉強する自習スペースが充実しており、小・中学生の子供たちの居場所の確保に繋がります。一時預かりサービスを利用しなくても育児コンセルジュがいることによって、子育ての悩みを相談することができます。はみんぐぱーく・わんぱーくでは、遊び場があり子供を見ながら親同士のコミュニ

ティの場にもなります。

次に、出産後の母親やその家族が心身ともに休むための産後ケアホテルが存在しています。1泊一部屋 5000 円程度（食事・サービス料金別途）で赤ちゃんの両親と兄弟も必要時泊まることができます。その施設には助産師がおり、希望すれば赤ちゃんや兄弟を預かってくれ、兄弟（赤ちゃん返りなどがみられても）と向き合う時間と、赤ちゃんとの時間をそれぞれ確保しながら、新しい家族生活が構築を図ることができます。父親にも父親としての妻への関わり方や産後の母体と新生児の体の変化なども助産師が指導することによって、男性の育児参入の手助けになると考えます。産後ホテルには、レストラン、兄弟の遊び場、マッサージ、カフェなどが入っており、追加料金は非常にリーズナブルに利用することができます。

水戸駅北口にはドラッグストアやスーパーや日用品や衣料品店や総合病院（周産期センターを含む）があるので、子育て世代や免許返納した高齢者にとって安全に快適に過ごすことができます。免許返納した高齢者には返納後 1 年間タクシーやバスの利用料金を免除するなどのメリットもあります。

#### ・まちの魅力について

この自然環境や歴史や文化に日常的に触れあえる環境で育った水戸市の子供達は、好奇心を持ち、積極的に学ぶことができ、自ら小・中学校を選択して行くことができます。

進学の実選択肢が多くある事で、多彩な才能と分野が開花し、水戸の企業の進展に繋がります。他県から通学する子供や転入者が増える事で若い世代（0～10代）を持つ子供や地方移住の高齢者などが多く集まり、活気溢れる町になっています。

このまちを実現するための課題と取組を P O に記載します。

## 【提言2】もう一人産めるまち

### ・まちの環境について

このまちは、出産時の不安が少なく、職場、園（保育園、幼稚園）、環境といった複数の手を借りながらで子供を育てられるまちである。

市内には高齢出産のトラブルにも対応できる総合病院や無痛分娩も可能な産婦人科が多くある。

こどもの預け先としては子供にあった環境を選べる保育園や幼稚園のほか、認定保育園や無認可保育園も市内にたくさんあり、働いていない子育て中の家庭でも預けることができる。さらに、ファミリーサポートや託児ボランティアなどのサポート体制もある。

登下校中のこどもを見守る環境としては、スクールガードの制度がある。

こどもと一緒に遊べる場所としては、わんぱく・みとや植物公園，図書館といった低料金や無料で利用できる公共施設がある。

経済環境としては、市内の中心部や郊外に、小売店や飲食店やクリニックなどの夜勤のない日中の勤務が中心で働ける職場が多数あり、赤ちゃんやこどもの服，幼児食を買えるお店やスーパーも市内各所にある。

### ・市民の活動について

このまちには大きい総合病院や、無痛分娩に対応している産婦人科がたくさんあることで、自宅から近い、そこしか産婦人科がないからといった理由だけで産院を選ぶのではなく無痛分娩を選択できたり、高齢出産や持病などのハイリスク妊婦に対応できる総合病院を希望できるなどどの病院でどんな出産をしたいかを自分で選ぶことができている。

市内の保育園や幼稚園は教育方針もさまざまで、広い園庭があり大人数で体を動かしてわいわい遊びたい子向けの大きい園、少人数でその子に合わせた活動ができたり、大人にじっくり目をかけてもらえる小規模園、自然に触れられるのびのびとした活動に力を入れている園や、一貫教育のもとエスカレーター式に進学できる園などいろいろあり、自分のライフスタイルや教育方針、子供の性格に合った施設を選ぶことができる。

また、産休・育休中に親にも頼れず保育園にこどもを預けられないときには、ファミリーサポートを利用できる。ファミリーサポートでこどもを預けている間に、親は体を休めたり洗濯や家の掃除などの家事を済ませることができる。

さらに、大規模ショッピングモールでは有料の子供遊び場、無料の遊具があり図書館にも託児ボランティアがいるので、親は図書館や買い物に出

かけたときには有料で施設管理者に預けたり、託児ボランティアにこどもを預けて、読みたい本や商品をゆっくり選ぶことができている。

小学生の登下校の時間には、近所に住む高齢者がボランティアでスクールガードをしてくれて、交通量の多い道沿いや横断歩道付近で親の代わりに見守りをしてくれている。

こどもと一緒に遊ぶときには、わんぱく・みとや植物公園、図書館に出かけている。植物園では大人三百円ほどで入場でき、公園内の珍しい植物を見られたり、季節ごとの景色を楽しむことができ、広い敷地や芝生の広場があるため歩いたり走ったり体をうごかせる環境がある。お弁当の持ち込みもできるためピクニックをしたり、疲れたらゆっくり休憩もできる。図書館では絵本の読み聞かせをしたり、気に入った絵本を借りて自宅で読んだり、読みたい本があれば市内のほかの図書館から取り寄せて最寄りの図書館で受け取ることができる。

中でも、図書館では、こどもが好きな高齢者が集まってサークル活動をしており、こども向けに絵本の読み聞かせや紙芝居などのお話会を開催している。更に保育士による折り紙やコマ作りなどのものづくり教室も開催されている。これらは託児サービスも兼ねているのでお話会やものづくり教室にこどもが参加している間親は自分の本を選んだり、雑誌を読んだりして過ごしている。未就学児で決まった預け先がまだない子供を持つ母親は短時間でも一人になる時間ができ、ほかの子供や保護者・保育士と話すことができる。

市内には、小売店や飲食店、クリニックが多くある。そこでは特に子供が小さい、子供が複数人いる、持病・体力的な問題がある、家族の都合によりフルタイムで働けない人が多く働いている。このような職場は夜勤がなく、勤務時間帯が日中であることが多いので、短時間・少ない出勤数、こどもを送ってから迎えに行くまでの決まった時間に働くことに理解がある職場を探すことができる。

スーパーやこども用品を扱っているお店も市内全体にあるので、このまちの人々は徒歩やバス

で買い物に出かけ、必要な物をすぐ手に入れることができている。

#### ・まちの魅力について

このまちは赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層の人が多く住んでおり、お店や職場へのアクセスも良く、利便性が良い。

高齢出産に臨む人も妊娠期のトラブルに対応できる病院があるので、水戸で安心して産み、育てられる。無痛分娩ができる産婦人科も何か所もあることで、医師との相性や母体や新生児になにかあった際対応できる総合病院かを選択肢に含めて検討でき、自分が望む出産、不安を軽減できる出産をすることができている。

産後働きたいという場合には、子育てしながらでも働きやすい職場が多くあるのと同時に、保育園や幼稚園の選択肢もたくさんあるので、子供の性格にあった園を選べたり、預かりができる・バス通園ができる園を探せることから親は無理なく働くことができる。

こどもを預けられる場所としては、ファミリーサポートのほか図書館や商業施設の中にも託児サービスがあるので、こどもを預けている間に親は息抜きもでき、一对一の育児中も孤独感、負担感を軽減できる環境がある。

このようにこのまちは、気持ちに余裕を持って出産、子育てができ、余裕があることで、もう1人産みたいという希望を持てるまちであるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

### 【提言3】負担のない出産・子育てができるまち

#### ・まちの環境について

私が理想とするまちは、出産から子育てまで負担がなく、2人目・3人目の出産も希望できるまちです。

このまちには、親族が近くに住んでいて産後も育児や家事の支援を受けられている人でも、育児に特に悩みがない人でも、希望するひとは誰でも利用できる産後ケア施設があります。

施設は、出産から産後ケアまでを同じ産院で受けられる施設と産後ケアのみを専門にした施設の両方が市内中心部だけでなく郊外にもいくつもあり、遠出をしなくても近場で利用することができます。

そこにはヨガやストレッチなどの運動ができるスペース、栄養バランスの良い出来たての食事を提供してもらえる食事スペース、日帰りだけでなく宿泊できるようにベッドもあります。施設には助産師や調理師、栄養管理士などの専門の人が常駐しています。また、赤ちゃんの兄弟を預けられる託児スペースや赤ちゃんの父親も一緒に過ごせるスペースもあります。

施設は落ち着いた雰囲気で作られており、利用したい人がすっと入りやすいようになっています。

#### ・市民の活動について

このまちの市民は、〇〇（リフレッシュ、育児相談など）を目的に上記の施設の産後ケアを活用しています。

例えば、出産で弱った身体を回復させ、気持ちをリフレッシュしたい時には、保育士に赤ちゃんの兄弟を預けて、ヨガやストレッチをしたり、ヘッドスパやハンドケアをしてもらったりしています。また、宿泊もできるので、希望すれば赤ちゃんを助産師？に預けて、お母さん、お父さんはゆっくり横になって眠ることができます。

育児相談をしたい時には、共用の食事スペースで、赤ちゃんの月齢が近いほかのお母さんたちと一緒に食事をしながら、雑談も交えてお互いの育児の悩みを相談しています。また、助産師さんには父母ともに育児相談できたりマッサージをしてもらえる他、お母さんは母乳ケアもしてもらえます。

#### ・まちの魅力について

このまちでは、特に育児や家事の支援が必要のない家庭も含め、どんな環境の家庭であっても、産後のお母さんやその家族は気軽に産後ケアを利用できて、産後も楽に過ごすことができるまちです。

助産師に育児相談にのってもらえるので、子育てに対して〇〇な気持ちになります。

自分と同じ状況のほかのママさんとおしゃべりできることで、〇〇な気持ちになります。

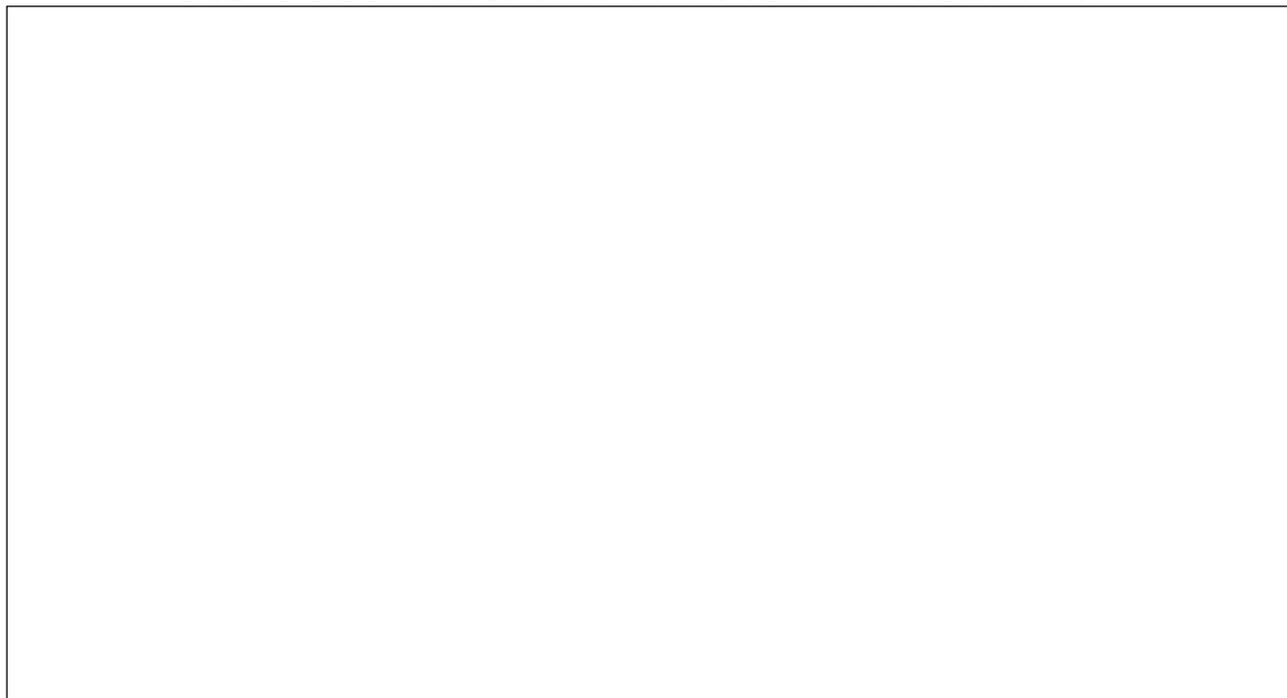
プロによるケアを気軽に受けられることにより、お母さん（あるいはお父さんも？）は〇〇な気持ちになっています。

さらに、親が気持ちも穏やかになることで、赤ちゃんの兄姉にも余裕を持って接することができます。

産後も手厚いケアがあることによって、「産後も気持ちが楽だから、もう1人産みたい」と思えるようになります。このまちなら産後も無理をしないで安心して育児できると思えるので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

## 【提言4】核家族・移住者が安心して子育てできる“子育て定住都市・水戸”



### ・まちの魅力について

・市内に産後ケア拠点が充実し、里帰りが難しい家庭でも身近な場所で安心して支援を受けられる。

・一時預かりや病児保育が充実し、急な予定や働き方の多様化にも柔軟に対応できる。

・公園・公共施設に授乳室やおむつ替えスペース、日除けなどの乳幼児向け設備が整い、子ども連れでもストレスなく外出できる環境が整備されている。

### ・市民の活動について

・移住者や核家族でも自然と地域に溶け込み、気軽に交流できる場所やイベントがある。

・子育てサポーターや地域ボランティアとのつながりが強く、「少し手伝ってほしい」が気軽に叶う温かいコミュニティが存在する。

・子育て相談や各種支援へのアクセスがスムーズで、困った時にすぐ頼れる“安心のネットワーク”が整っている。

### ・まちの魅力について

・妊娠期から乳幼児期まで切れ目のないサポートが続き、子育て世帯が安心して暮らせる“子育て先進都市”。

・新しく移り住んだ家庭も、地域に根付きやすく、「水戸で子育てしてよかった」と実感できるまち。

・子どもを中心に、大人も地域もゆるやかにつながり、子育ての負担が分かち合われる温かいコミュニティが育つまち。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

## 【提言5】すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち

### ・まちの環境について

私にとっての理想のまちは、障害や難病の有無に関わらず、未就学児や小学生のこどもやその養育者が（無料で？低価格で？）安心して過ごせる居場所が複数存在する。

例えば、屋内で遊べる場所としては、わんぱく・みとやはみんぐぱく・みとなどの子育て支援センター、市内小中学校の体育館、リリーアリーナ MITO がある。これらの施設は、屋内で空調もあり公園のような広いスペースがある。土日祝日のほか、夏休み、冬休みといった長期休暇中でも個人にも開放されている。

各地区に存在する市民センターにはこどもスペースがある。こどもが走り回れる広さの和室になっており、玩具や遊具が常時置かれ自由に使えるようになっている。また、玩具や遊具の施設内貸出も行われている。さらに、個人で予約して利用できる個室スペースもある。そのほか、市民センターでは子育て広場事業も数多く行われている。

教育や福祉施設としては、幼稚園・保育園・小中学校（義務教育学校含む）・高等学校・大学などが公立・私立問わず市内に多数存在している。さらに、茨城県立の水戸特別支援学校・内原特別支援学校・水戸飯富特別支援学校・盲学校・水戸聾

学校があるほか、公立の小中学校の各校にも特別支援学級が設置され、在籍児童・生徒数は全国的にも増加傾向である。

医療施設としては、茨城県立こども病院・愛正会記念茨城福祉医療センターなど小児の難病や障害を対象とした大病院が近隣自治体と比べ、水戸市内には多く存在している。

### ・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、土日祝日や長期休暇中には子育て支援センターや体育館へ遊びに出かけている。広々とした室内で気候や他人の目を気にすることなく、くるくる走り回ったり、のびのびと体を動かしたり、ボール遊びをしている。広々としつつも屋外と違って壁があるので、こどもが遠くに行きすぎてしまう心配もない。

急な雨などで外で遊べなくなってしまったときには、市民センターのこどもスペースに立ち寄り遊んでいる。常時遊具が置いてあるので、ふらっと寄っても遊ぶことができる。さらに、おもちゃの施設内貸出しもあるので、乳幼児の養育者は必要なときに寄って利用する事ができている。

障害や病気の程度によって、大勢の人がいるところが苦手だったり、友だちの家に遊びに行ったりするのが難しいときには、市民センターにある

個室スペースに友人家族と子供を交えて集まり、ゆっくり座って過ごしたりしている。

また、子育て支援センターには、こどもの年齢ごとに利用日が区切られている日も設けられている。その日はこどもの年齢が近い親が集まり、同じ境遇の親同士が出会ったり、共通の子育ての話などをして交流している。同じ学区内の子育て世帯が集まり交流するイベントも多く行われている。

#### ・まちの魅力について

このまちは、子育て世帯が気軽に立ち寄れる居場所があるまちである。

土日祝日や長期休暇など、こどもの保育園や小学校が休みの時に、子育て支援センターや体育館、市民センターが開放され個人単位でも利用できることで、こどもの遊び場に悩むことなく親は安心してこどもを遊ばせることができる。また、市民センターには個室スペースもあるので、周りの目を気にせず過ごすこともできる。

また、自分のこどもと歳が近いこどもを持つ親と出会える場があることで、子育てによる閉塞感や孤独感を感じることなく安心して過ごすことができる。

このように、子育て世帯がほっとできるまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

#### ・まちの環境について

このまちは、転入者などの地域のコミュニティとの関係が薄い子育て世帯や、出産～育児期に近くに親族がいない人でも安心して暮らせるまちである。

このまちには、頼りたいときに気軽に頼れるような、人と人のつながりがある。例えば、困ったときに相談できる場所として、市のLINEにはコンシェルジュがいる。コンシェルジュは、仕事を退職してこどもの相手をしたい高齢者や、水戸に長く住んでいて何でもまちのことを知っている物知りな人、サービスやイベントを熟知した人であり、LINEから気軽にアクセスできる。

また、このコンシェルジュは、LINEだけでなく、〇〇〇〇などにも常駐している。

コンシェルジュはアクセスして来た人の相談に乗るだけでなく、自ら市民の話を聞きに行くなどお節介しに行くこともある。

また、このまちでは、プレママ教室や赤ちゃんと生徒がふれあう体験などが行われていて、結婚や出産をする前の若いうちからコンシェルジュと接する場がある。

#### ・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、コンシェルジュに困りごとを相談したり、相談内容に沿った窓口やサービスを案内してもらっている。

また、コンシェルジュは相談に来た人を受けただけでなく、自ら話を聞きにお節介をしにやってくるので、ただ話を聞いてもらいたいだけの人も、コンシェルジュとつながることができている。気ままに話を聞きに来てくれるので悩みを言いやすく、ぽろっと本音を話したりしている。

プレママ教室や赤ちゃんとふれあい体験では、若いうちからコンシェルジュと知り合うことができるので、いざ自分が出産や育児で困りごとがあるときに、顔なじみのコンシェルジュに相談することができる。

#### ・まちの魅力について

転入などの理由により地域との関係性が薄く話をしたいときに話せる相手がない子育て世帯や、近くに親族がいない子育て世帯も、このまちでは頼りになるコンシェルジュがいることで安心して過ごせるまちである。コンシェルジュは相談が来るのを待っているだけでなく自らお節介をしにも来てくれることで、家族のような身近な存在になっている。急な仕事や病気のときにも、あの人のところへ相談すれば大丈夫という安心

感を持つことができている。

コンシェルジュと市民がつながることで、まちごと家族のようになり、このまちはあたたかい雰囲気きふきに包まれている。

また、コンシェルジュにお節介せつけいをしてもらった人にとっては、あたたかあたたかいやりとりいやりとりができた思い出おもひでが残り、お節介せつけいしてもらったことで自分も役に立ちたい、自分もこのまちに恩返しおんがししたいと思うようになり、助け合いたすけあひの気持ちが循環じゆんわんしている。

このようにまち全体で家族のように協力し助け合える頼れる人たのめるひとがいるので、水戸市は皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP○に記載します。
-----------------------------

#### ・まちの環境について

私の理想とする水戸市は「夢を実現する環境が整っているまち」です。子育てがひと段落した世代や、仕事をリタイヤして時間ができた世代が、「夢をかなえたい」と思ったときに年齢や環境のせいであきらめなくていいまちです。

このまちには、さまざまな用途に応じて誰でも使える場所として、次のような施設や会場があります。例えば、飲食店をできるように水道やガスなどのキッチン設備や寸胴などの特殊な調理器具が置いてある施設、保育や学童、ダンスができるように防音設備や音響設備がありフローリングや鏡が設置された広いホールがある施設、将棋・オセロなどのボードゲーム大会や絵画の個展を開催できるように〇〇などがある施設、ローラースケートやミニ四駆などの競技を行えるように床や壁に傷がついても大丈夫な造りの広い会場があります。

これらは、現在使われていない空き家や倉庫をリノベーションし、誰でも使えるように管理されています。利用したい人は登録と予約さえすれば1日単位で自由に利用することができます。

また、これらの施設には常設施設として「小学生の緊急下校先施設」が併設されています。この施設は、親が就労していないなどの理由で学童を

利用できない家庭のこどもが、親自身の通院など緊急の理由で放課後一時的に居場所が必要になったときに親の帰りを待つことができる施設です。

#### ・市民の活動について

このまちでは、子育てがひと段落した世代や仕事をリタイヤした世代が、やってみたいことに挑戦できるまちです。

例えば、飲食店やダンススタジオなどを開店したいがいきなり実店舗を持つのは不安な人は、1週間や数日間の期間で間借りをして、この施設でお試し開店をしています。キッチン設備や特殊な調理器具、防音設備や音響設備など費用面で負担の大きいものは備え付けてあるので、食材やお皿など用意しやすいものを持ち込んですぐ開店し、自分の夢を実現できるかどうか挑戦しています。

また、水戸は都内から2時間あれば来ることができるので、東京で平日働いている人が土日だけ水戸に来てお試しでお店を開いていることもあります。それがきっかけで水戸でやってみたい仕事を見つけて移住してくる人もいます。

保育士の資格を持っている人は、市内の学校で運動会などがあるときに保育・学童の施設に集まり、保護者が運動会等に参加している間、赤ちゃ

んや幼児を預かっています。

ボードゲームや絵画、ハンドメイドが趣味の人は、それぞれ好きな人たちが集まってイベントや個展を開催しています。

ローラースケートやミニ四駆が好きな人は、大人数で集まり、床の傷などを気にせずに思い切り競技をしています。

また、働きたいけど、こどもが学校に行っている間だけなど時間が限られている人や、高齢のため働ける場所がない人も、お試し開店している人のお店や競技大会のスタッフ、「緊急下校先施設」でこどもの見守りとして、隙間時間や自分の好きなタイミングにアルバイトやパートで働いています。「緊急下校先施設」には、学童に入っておらず親がどうしても下校時間に間に合わないけど親の帰りを待つ場所がないというこどもがやってくるので、一時的にこどもを預かり見守るスタッフとして働いています。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

#### ・まちの魅力について

このまちは、自分の夢をかなえられるのはもちろん、子育て中や高齢であるなどフルタイムで働けない人でも生涯活躍し続けられるまちです。

結婚や出産、子育て等で仕事から一度離れた世代も、定年退職後に改めて夢をかなえたい人も、いつでも誰でも挑戦できる環境があることで、やりたいことに挑戦するハードルがぐっと下がり、夢を実現することへの自信をつけています。また、さまざまな事情によりフルタイムで働くことが難しい人でも、空き時間や体力を考慮し自分に合った働き方でまた社会に出ることができるので、現役の働き手でなくなったときに社会から離れてしまったような不安な気持ち（生きがいを失ったとか、喪失感とか？）になることもありません。

このまちは「もう歳だし…」や「今更働くなんで…」と諦めなくいいまちです。水戸なら自分のやりたいことができ、雇用主としても雇用される側としても活躍することができます。

年齢や環境に関係なく生き生きと活躍し続けられるまちなので、皆から選ばれています。

#### ・まちの環境について

私が理想とするまちは、地域コミュニティを中心としたコンパクトな生活ができるまちである。水戸市の地域コミュニティは、34の地区会、約1300の町内会・自治会、約6400の班及び加入世帯で構成され、コミュニティに属する市民も赤ちゃんから高齢者まで多世代に渡っている。

この地域コミュニティの活動を支える場所として市民センターがあり、地区会の数に対応して34ヶ所に設置されている。この市民センターは地域コミュニティ活動に参加したい人たちが誰でも気軽に利用できると共に、〇〇などにチャレンジしたい人を応援するための機能を備えている。

市民センターの主な機能としては、窓口業務や災害時の防災拠点のほか、生涯学習講座やサークル団体の活動拠点、地域コミュニティの活動を支援する場になっている。さらに、地域の人が活動する内容や場所のニーズに合わせて、こどもが遊べる屋内スペース、図書コーナー、学習スペース、カフェスペースもある。若い人や移住してきた人と地域コミュニティをつなぐ仲介の役割もしている。市民センターは小学校区単位で設置（「1小学校区に1市民センター」）という方式を取っているため、歩いて行ける距離にあり、地域ごとのアクセス性が比較的高い。

また、コンパクトな生活ができるように市内の中心部には、図書館や美術館といった文化的な施設、弘道館や歴史館、千波湖、偕楽園といった歴史的な建物や場所がある。これらは住んでいる人にとって距離的に行きやすい場所にある。

#### ・市民の活動について

それぞれの地域コミュニティは、お祭りや運動会、清掃活動、防災訓練、緑化推進活動、こどもや高齢者の見守り活動、防犯活動、回覧板や広報みとの配布、行政への連絡調整、意見要望のとりまとめなどを行っている。地域の人はこれらの各種活動に参加したり、昔ながらのお祭りなどの行事の手伝いをするなどでそのまちの歴史を知ったりしている。

市民センターへは各種証明の申請の手続きに訪れたり、災害時は避難場所として集まるほか、それぞれのニーズに合わせて利用している。

例えば、若い人や移住してきた人は、自分が住む地域の行事や活動を知ったり参加したいときには、市民センターの〇〇を利用している。

子育て世帯は、こどもをちょっと遊ばせたい時は、市民センターにある屋内の遊びスペースを利用している。屋内の施設なので夏の暑さや虫刺されの心配もなく、走り回ったり、積み木やボール

遊び、トランポリンなど、体を動かす遊びをして過ごしている。

本を読みたいときには市民センターにある図書コーナーを利用している。県立や市立の図書館と連携しているので、図書館で借りた本をそこから返却したりもしている。

中高生は市民センターにある学習スペースで勉強して過ごしている。

こども食堂などの運営や活動をやってみたいNPO 団体や、カフェのお店を運営してみたい人は、市民センターにあるフリースペースやカフェスペースを利用してチャレンジしている。

そのほかのライフスタイルとしては、県立図書館の広場で体操をしたり、芸術館で行われるイベントに参加したり、千波湖でランニングをしたりもしている。これらは距離的に近いところにあるので、行きたいときに行くことができている。

#### ・まちの魅力について

このまちは、自分が住んでいる地域の人々と支え合いながら、〇〇できるまちである。

市民センターを始めとした場所での地域コミュニティの活動を通して、若者や高齢者、核家族、移住者が仲良くなったり元気になったり助け合ったりなどの交流が生まれている。

さらに近場には、自分の好きな文化活動ができる場所や、歴史的な場所があるので、ひとびとはまちに親しみを持つことができている。

このように、コンパクトな範囲でも暮らしやすいまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

## 【提言9】どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境 動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」

### ・まちの環境について

茨城県には複数の植物園や動物園があり、水戸市も植物や動物を身近に感じられる環境が整っているまちである。

例えば、市内には日本3大庭園にも認められている偕楽園をはじめ、千波湖や保和苑があり、そこでは野生の白鳥や〇〇などの生き物が生息しているほか、千波湖では広大な敷地を活かしたドッグランもある。

水戸市民会館を含めた京成百貨店・水戸芸術館のMitorio(ミトリオ)では動物を自然に近い環境で見られるように〇〇な設備や環境がある。

一方で、コロナ渦を経てペットブームにはさらに拍車がかかっており、動物病院は全国で13,000院ほどある。茨城県にも数多くの動物病院があり、市や県の動物愛護センターなどの公営施設がある。

### ・市民の活動について

このまちの人々は、様々な事情で動物を飼育できない人も含め、植物や動物と日常的に触れながら過ごしている。

学生から40代くらいの若者は千波湖に生息するきれいな植物や珍しい生き物の写真を撮ってSNSに投稿している。高齢者は千波湖や偕楽園と

いった自然の中で散歩したりランニングなどの軽い運動をしたりして過ごしている。ペットを飼っている人は、犬の散歩がてら千波湖を一周したり、ドッグランを利用している飼い主同士で共通の話題で交流している。

Mitorio(ミトリオ)で開催されている室内型の動物ふれあいイベントには親子や小学生の子ども同士で遊びに来て、クジャクやヘビ、鷹匠体験など動物園に行かないと見られない動物とのふれあい体験をしている。Mitorio(ミトリオ)は水戸駅からのバスも走っていてアクセスも良いので、イベントに来たついでに水戸駅や百貨店で買い物したり、水戸芸術館で芸術鑑賞をしたりしている。

一方で、保護すべき犬や猫を見つけたときにはすぐに動物病院を頼ることができている。動物病院は市民とボランティア団体の仲介役となり、ボランティア団体は保護犬や保護猫を飼いたい人へ繋いでくれるので、このまちでは、単身者から夫婦、家庭など様々な家庭で、保護犬や保護猫を家族の一員としてお迎えしている。

また、犬や猫の保護活動をしている民間のボランティア団体などがあり、ボランティア団体は動物病院と連携している。例えば、市民が動物病院へ届けた保護犬や保護猫が新たな飼い主に引き

取られるまでの世話をしている。また、一人一人の市民も、捨て犬・捨て猫を見て見ぬふりをすることなく保護したり、動物病院へ届けたりしている。

#### ・まちの魅力について

このまちの人々は、日常的に人以外の動植物を身近に感じていることで、気持ちをリフレッシュしたり、不安感・ストレス・緊張感などを和らげることができている。

千波湖や偕楽園では豊かな自然やそこに生息する生き物を見ることができるので、リラックスしたり癒やされている。さらにドッグランがあることで、普段偕楽園や千波湖に来たことがない人が来るきっかけにもなり、訪れる楽しみにもなっている。

こどもたちは、イベントで動物とふれあうことによって、レアな生き物について親子で話し合う機会が増え、お父さんやお母さんと一緒に学んだという楽しい思い出を作ることができている。たとえ様々な事情で動物を飼育できないひとや家庭であってもイベントがあることで動物を身近に感じ楽しむことができている。動物とのふれあいは好奇心や感受性の成長や発達に大きく貢献してくれるため、人間だけではできない教育の1つにもなっている。

さらに、このまちには、皆で動物を守る愛護の気持ちもあふれている。たとえば犬や猫を様々な要因で育てることができないために捨て犬・捨て猫を保護することに抵抗があっても、近くの動物病院に連れて行けば連携しているボランティア団体に保護犬や保護猫を受け渡していける支援体制があるため、命のバトンを繋ぐことができている。それにより、悲しい連鎖を断ち切ることができている。

このまちでは、人々は生き物への愛着の気持ちをもっており、人間と動植物が共存しやすいことが魅力となっているので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

・まちの環境について

私が理想とするまちは、歴史や文化といった古いものも大切にしつつ、若者（高校卒業後から大学卒業後くらい）が住みたくなるような新しいものも受け入れているまちです。このまちでは、若者が収入を得ながら住むことができる経済・住宅環境があります。

経済環境として、水戸には、偕楽園や好文亭など昔から守ってきた歴史や文化、駅北の商店街などの街並みがあります。そして、昔からあるそば屋さんなどの飲食店、おだんご屋さんなどの和菓子屋、金物屋など、歴史や伝統を守ってきたお店があります。そこでは若者が働きやすいように〇〇の環境があります。また、若者が働いている姿がお客さんや観光客に見えるように〇〇の環境があります。

一方で住宅環境としては、水戸で働く若者が市内で生活できるように、空き家がリノベーションされ住めるようになっています。

・市民の活動について

このまちの若者は、〇〇の環境によって、そのお店で働いてみたいと思い、就職しています。ここでお店の伝統や技術を学び、ゆくゆくは後継者になっています。店側も、積極的に若者のアイデ

ィアを取り入れて、SNS で情報を定期的に発信してもらうなどしています。

観光で水戸を訪れた若者も〇〇の環境によって、自分と同世代の人がお店で働くのを見て、このまちで働いてみたいと思うようになり、このまちに集まってきます。

また、単に仕事があるだけでなく、安く住める住環境があるので、若者は水戸で暮らし働いています。

・まちの魅力について

このまちは、歴史や文化を大切にしながら、柔軟に若者を受け入れているまちです。

水戸は古いものと新しいものが両方あるまちです。伝統ある場所で若者が活躍していることで、古いとは言わせない、新たな文化も柔軟に取り入れるまちになっています。

若者が多く集まる事でまちが活気に溢れ、（誰が？若者が？）安定した収入を得られるので経済的にも豊かなまちになっています。また、伝統を守ることによる安心感や伝統が途絶えなくて済む安心感も生まれています。

さらに若者が「安く住み」「活躍できる」ことで、市民と観光客の両方が増えています。

このように、若者が活躍できるまちなので、皆

から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP○  
に記載します。

## 【提言 11】 偕楽園×千波湖イベントの交通連動による「歩いて楽しめる水戸」構想

### ・まちの環境について

このまちは、都内から電車1本で来ることができ、駅を降りてからも歩いて楽しめるまちである。

このまちには日本三名園の偕楽園をはじめ千波湖、千波公園がある。ここは、クラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒のイベント、高校や大学の文化祭等の様々なイベントが開催できるように、〇〇がある。

都内から電車でアクセスできるように偕楽園駅は週末イベントに合わせて臨時開駅され、駅からは偕楽園や千波湖まで歩きで行ける直結ルートがある。そのルートには偕楽園周辺の豊かな自然や千波湖の白鳥を眺められるスポットなどがある。

### ・市民の活動について

このまちには、電車に乗って都内からも多くの人が訪れている。特に都内に住む車を持たない若い世代や高齢者が週末は水戸を訪れている。

市内では多くのイベントが開催されており、特に千波公園においては、春から秋の週末にクラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒の飲み比べイベント、高校や大学の文化祭等様々なイベントが開催されている。

イベント会場内では様々なイベントブースが

あり、お客さんは自分の好きなブースに立ち寄り、スタンプラリーのように会場内を回遊している。

また、学生はこれらのイベントにボランティアとして携わっている。社会で実際に働いている大人や企業とイベントを通して仕事の手伝いをしたり、話を聞いたりすることで、将来の自分の職業体験につながっている。

高校生や大学生は学校内ではなく千波公園で文化祭を開いている。学校内ではなくいろいろな人が利用する千波公園で行うことで、普段学校に関わりの無い人たちも文化祭を見に来ている。

偕楽園駅からイベント会場までは道がつながっているので、人々は偕楽園や千波湖の豊かな自然や白鳥を眺めたりしながら、イベント会場まで歩いて移動している。

### ・まちの魅力について

このまちは、都内からも若い世代や高齢世代が来たくなるような楽しいまちである。

水戸駅まで行かなくても偕楽園駅で降りればすぐイベント会場までアクセスできるので、駅を降りてから何しよう、どこへ行こうと迷うことがないし、電車で来ているためお酒のイベントなどにも気兼ねなく参加できる。都内からたくさん人がやって来ることで、通常地元の人しか来ないよ

うなイベントの質も〇〇に変化している。

こうして水戸を訪れた人々は水戸はいいところだと気に入っている。それにより、今以上に市内外から人がたくさん来るようになり、来訪促進に繋がっている。

学園祭や文化祭も、学校内ではなく市民の憩いの場や観光地でもある千波公園でやることで、学校関係者だけでなく一般市民も来場し、学校のPRや魅力向上にもなっている。

多くの人が偕楽園や千波湖を訪れまちが賑わうことで、地域経済の活性化になっている。

電車1本で偕楽園駅から歩いて千波公園等の目的地まで行くことができ、そこで自由に周遊することで「歩いて楽しめる水戸」という新しい魅力が生まれているので、水戸市は皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

## 【提言 12】 市民一人ひとりが推せるまちづくり

### ・まちの環境について

街を歩くと水戸市のまちづくりの特徴やそのエリアの個性がよくわかります。

### ・市民の活動について

市民一人ひとりが持っている水戸市の推しポイントについて日ごろから特定のハッシュタグで SNS にアップしたり、推しを明確に話すことができます。

### ・まちの魅力について

歴史や文化、自然環境、都市環境、住環境、気候、コミュニティなど様々な要素が人を惹きつけており、市民一人ひとりが水戸の推しポイントを自覚しています。

このまちを実現するための課題と取組を P○に記載します。

## 【提言 13】多様な仕事充実し、達成感をえられるまち

### ・まちの環境について

このまちは、大学新卒から20代前半くらいまでの若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるまちである。

このまちには、農業・製造業・サービス業など様々な職種や業界の仕事が幅広くあり、働きやすい環境が整備されている。例えば、自宅と職場が通いやすい距離にあったり、スキルアップのための研修、成果に応じた臨時ボーナス、育休、時差出勤、長期間のインターンシップなどの制度がある。また、子育て中の人がかどもを預けて働けるように保育施設が会社に併設されている。

市内には、バスや電車などの公共インフラの他、合同企業説明会を開催しやすい施設も整備されているため、市内に住む人、市外に住む人が働きやすいようになっている。

### ・市民の活動について

このまちの人々は、自分のライフスタイルに合った仕事や働き方をしている。

例えば、若者は、職場でスキルアップの研修を受けて主体的に仕事をしたり、会社から評価されると臨時ボーナスが出るので積極的に仕事をしている。効率的に仕事に取り組み、残業もなく、休みもとりやすい働き方をしている。

こどもが生まれたときには、こどもが小さいうちは育休を取って育児に専念したり、仕事に復帰したら時差出勤を利用して朝保育園にこどもを預けてから出勤したりしている。

一方で、プライベートの時間では趣味に没頭したり旅行に出かけている。休日にはしっかり休みを取り家族みんなで千波湖や偕楽園に出かけたり、音楽ライブに出かけたりしている。時差出勤を利用して、午後は早く帰り、日中しか開いていない美術館に行ったり、友達と夜遅くまで遊んだ日は、時差出勤を利用して翌日はゆっくり休んで体調を整えてから仕事に出かけている。

新卒や転職する人は企業の合同説明会に参加し、先輩社員から仕事や働き方の本音について聞いている。企業を実際に見学に訪れたり、長期間インターンシップに参加して、就職前の想像と就職後の現実とのギャップをなくし、イメージ通りの仕事や能力的に自分に向いている仕事に就いている。

### ・まちの魅力について

このまちの若者は、仕事もプライベートの時間もバランス良く豊かに暮らしている。時差出勤や休暇を取りながら無理なく自分らしく働いている。プライベートの時間では、趣味や旅行などの

余暇の時間を楽しんでいる。

就職活動している人は、企業説明会やインターンシップに参加することで、想像と現実のギャップを少なくし自分がやりたい仕事や向いている仕事に就いて生き生きと楽しく働いている。

このまちでは、やりたい仕事に就き達成感ややりがいを得ながらプライベートも充実して暮らせるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

## 【提言 14】若者が住み続けたいと思えるまち

### ・まちの環境について

このまちは、水戸で大学進学や就職を考えている人が暮らしやすいまちである。

このまちの教育・就業環境としては、県立や私立の高校や大学、大学院、専門学校も数多くあり、進学先が豊富にある。また、美容・服飾・デザインなど、自分のスキルを活かせるクリエイター系の就職先のほか、在宅勤務やフレックス等新しい働き方ができる職場などの選択肢も豊富に存在している。

そして、水戸で進学したり就職したい人のために、進学先情報や就職先情報を一括して見られるポータルサイトがある。このポータルサイトには、就職先の〇〇な情報や就職の〇〇講座の情報、奨学金の情報がまとめられており、水戸で進学したい、働きたいと思う人がインターネットからいつでもどこでも情報を得ることができる。

また、就活や働き方についての意見交流や情報共有ができる場として、就活中や同じ分野で働く人など同じ立場の仲間や先輩社会人との交流会、企業見学、インターンシップが多く行われている。

一方、生活する環境としては、市内には街灯や防犯灯が適切に設置され、通学路や通勤路が明るく照らされている。また、自動車や自転車と歩行者が接触しないように、道路にはスクールゾーン

や自転専用レーンが整備されている。

水戸駅から大工町周辺、ミトリオ・市民会館・芸術館の広場においては、フリーマーケットやキッチンカー、学生の部活や社会人のサークル活動の発表、企業による研究発表などのイベントを開催しやすいように、〇〇がある。

### ・市民の活動について

このまちで進学や就職を考えている若者は、学校や就職先の情報をポータルサイトで調べている。また、交流会やインターンシップに参加し、民間企業の働き方、就活の仕方、公務員、大学院の情報など実際の声を聞いて情報収集している。就活中や同じ分野で働く人などの同じ立場の仲間や先輩社会人と交流することで、在宅勤務やフレックスなどの新しい働き方や、水戸で働きながらどんなビジョンを持っているか、その仕事地域の中でどんなはたらきをしているかといった地域での活躍の仕方を学んでいる。それにより、自分の求めている働き方を確立し、自分のやってきたことが生かせる会社や大学で取得した資格を生かせる会社に就職している。

また、歩道は自転車や歩行者が通行しやすいように整備され、夜間は街灯で明るいので、車を持っていない人も自転車や歩きでまちなかを移動

している。若者は暗い時間まで学校で学んだり、職場で働くなどやりたいことに打ち込んでいる。遊びに出かけるときも、時間を気にせず出かけている。

休みの日には、まちなか（水戸駅から大工町周辺、ミトリオなど）で行われているイベントに参加している。そこでは、自分で開発した食べ物や、ハンドメイド作品をフリーマーケットやキッチンカーで売ったり、企業が研究した成果を発表したり、学生や社会人が部活やサークル活動の発表をしている。単に「買い手」として商品やサービスを消費するだけでなく、「売り手（発信者）」として自分のアイデアや商品を提供し、主体的に経済活動をしている。売り手としてその人のやっていることを他者と共有している。

#### ・まちの魅力について

このまちの若者は、地域にいながら多様な進路を描くことができている。

たくさんの進学先、就職先が市内にあることで、幅広い選択肢の中から自分の進みたい道に進むことができている。また、ポータルサイトや交流会、インターンシップで事前に情報を集めることができるので、自分が選択できる中でできるだけ良い選択ができている。そのため、進学すること、働くこと、社会に出て行くことへの不安がなく、将来への希望を持ってている。

また、このまちは、大学進学や就職に伴い水戸で新しい生活を始めるときなど、特に単身で暮らす若者にとって不安を感じることなく生活できるまちである。夜でも暗いところがなく、歩きや自転車でも安心して歩けるので、学業や仕事に打ち込んだり、時間を気にせず遊びに出かけたりすることもできる。環境や治安のせいで自分のライフスタイルを害されることがないので、○○○○になる。

さらに、休日にはイベントが行われているので、まちには活気が溢れている。若者は主体的にイベントに参加しているので、休日は水戸で何をしたらいいかと思うことがない。自らのアイデアや商品を提供し、お客さんに見てもらおう（買ってもら

う）ことで、○○○○になる。一方で、イベントを見に来たり買いに来たりした人たちは、地元で地域のイベントに楽しく参加している人を見ることで、水戸に良い印象を持ってくれる。

このように、人々は水戸は楽しくていいまちだと思っているので、地元で愛着が湧いている。水戸で進学、就職し、ひいては、このまま水戸で結婚や子育てをしたいと考える人が増えるので、皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

・まちの環境について

このまちは、大学生くらいの若者から高齢者までどの世代も自分の好きなことを楽しめるまちである。

このまちには市民に親しまれている千波公園や偕楽園、千波湖があり、そこでは、映画の野外上映やクリスマスマーケット、マルシェ、高齢者が主催する蚤の市、若者が主催するフリーマーケット、千波湖1周ランニングイベントといったイベントが定期的に行われている。

これらのイベントは誰でも出店や入場がしやすいように無料で開催されている。

・市民の活動について

このまちの人々は、千波公園や偕楽園などで行われるイベントに自然と集まり、思い思いの方法で参加している。

例えば、夜行われている映画の野外上映やクリスマスマーケットには、若者が友達同士や1人でふらっと身軽に立ち寄り、おしゃべりしたり食べ歩きしながらゆったりと自分の時間を過ごしている。若者主催のフリーマーケットでは同年代同士でイベントの楽しさを伝え合ったり、市外から来ている人には水戸のおすすめのお店や場所を介したりしている。また、水戸に来たついでに偕

楽園などを観光したりしている。蚤の市では高齢者と若者が売り物のアンティーク品を通して〇〇している。ランニングイベントには多世代の人が参加し、ストレッチをしながら、普段あまり会話をしない世代とおしゃべりをしていく。また、高齢者はこのようなイベントに参加することで心身の健康維持にもつながっている。

さらに、市外から移住してきた人もこれらのイベントに参加することで、まちの人たちと交流するきっかけになっている。

これらのイベントは無料で出店や入場ができ、場所も千波湖や偕楽園といった近場で開かれているので、誰でも行きたいときに行くことができる。

・まちの魅力について

このまちは、若者から高齢者までどの世代もイベントに参加するだけでなく、出店・運営する側としても活躍しているまちである。

高齢者は年齢などにとらわれずイベントに参加することで日々の楽しみができ、生き生きと暮らしている。

若者はイベントに参加することで地域への愛着が生まれ、水戸で〇〇をして活躍している。

イベントでは市内外の人が交流することによ

り〇〇などの水戸の魅力が市外に住んでいる人にも伝わり、水戸に移住したいと思うきっかけにもなっている。また移住してきた人もイベントに参加することで地域の人との交流が深まり、このまちに親しみを持てるので〇〇（例えば、不安や孤立感など？）になることがなく安心して暮らすことができている。

このように、誰もが水戸市に郷土愛を持ち、ここで暮らし活躍したいと思う人が増えているので、このまちは皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。
-----------------------------

## 【提言 16】 定着しやすいまち

### ・ まちの環境について

- ・ 小売店の店舗の多さ
- ・ 偕楽園を始めとした人が集まる場所が多い
- ・ 茨城県最大の商業圏

### ・ 市民の活動について

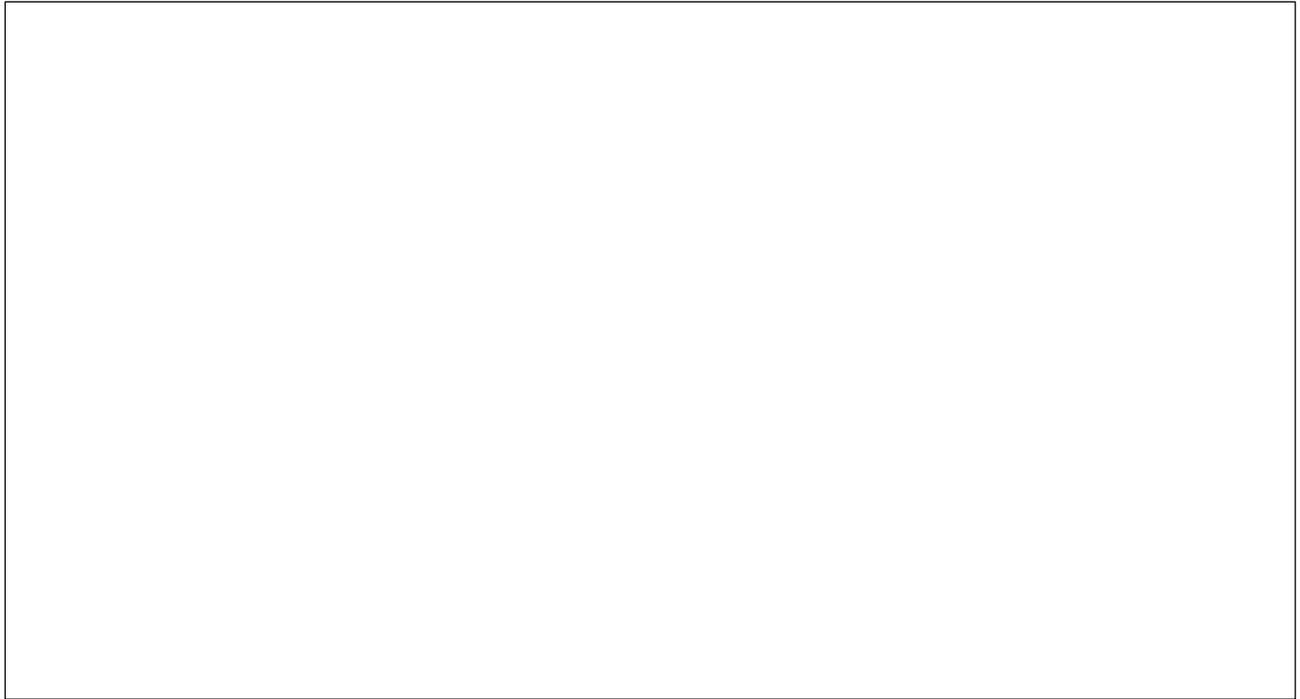
- ・ 様々な団体がイベントに参加している
- ・ 商圈人口の多さと他地域からの様々な人が集まる

### ・ まちの魅力について

- ・ 関東大都市圏に近い
- ・ 地元企業との連携や企業支援，就職支援による  
地元への定着

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

## 【提言 17】若者が住み続ける，帰ってくる水戸市



### ・まちの環境について

住みやすい

梅まつり等の水戸ならではの様々なイベント  
を体験できる

### ・市民の活動について

### ・まちの魅力について

このまちを実現するための課題と取組をP○  
に記載します。

## 【第2部】

# 理想のまちを実現するための課題と取組

### 第2部の見方

第2部は、第1部で描いた理想のまちの姿を実現するための働きかけを、以下のようなロジックに基づき記載しています。

①：第1部で描いた、私が理想とする水戸市の姿の要旨を記載しています



②：①の中から実現したい魅力を選び、目標と定めています



③：②の目標を実現するに当たっての課題を記載しています



④：③の課題を解決するための行政の取組を記載しています

## 【提言1】「自然あふれるまちで活気ある教育と安心して育児できるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「水戸市内に在住している小・中学校の環境充実」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

### 【課題解決への取組】

### 備考

水戸市には、様々な学科と偏差値の高等学校が存在しています。現在、水戸市内には公立小学校 31 校、私立小学校 2 校、国立小学校 1 校（水戸市、ひたちなか市、那珂市一部から通学可）が存在。私が理想とする水戸市は、歴史や文化を大切にしながら、市外在住の人も通学したいと思えるような私立の小・中学校が存在し、学園都市のような未来と活気溢れるまちであることです。

## 【提言2】「もう一人産めるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「物価高、少子化が進むなかでも「もう一人産みたい」という希望を持って、叶えられる」「子育てと家庭、仕事を無理なく回せる環境」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

- ・子供に十分目と手間をかけながら、働いて社会とのつながり、収入を維持できる環境をつくる

### 【課題解決への取組】

- ・就労時間の制限なく保育園を利用できる（64時間/月以上の制限をなくす）
- ・子供に無理をさせない時間での働き口の紹介
- ・0-2歳の保育園児の保育料の支援



### 備考

こどもと一緒に買い物に行くと、こどもが商品を触ってしまったったりカートに乗ってくれないなど、すぐ終わる用事がなかなか終わらないということもあるが、出先で預けることができればゆっくり見て回ることができるので、子育て中の親にとっては負担感が減る。

※上記は、先日の聞き取りで伺った内容になりますが、今後課題を考えるときに、課題の補足の説明としたほうが良いかと思いましたが、ひとまず備考に入れておくことにしました。

### 【提言3】「負担のない出産・子育てができるまち」

#### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「〇〇〇〇」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



#### 【課題】

・

#### 【課題解決への取組】

・



#### 備考

その産院で出産したかどうかに関わらず、自分が希望する施設でケアを受けることができます。食事スペースでは、栄養バランスのとれた献立を栄養管理士が考えてくれ、調理師が食事を用意してくれます。

## 【提言4】「核家族・移住者が安心して子育てできる“子育て定住都市・水戸”」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入

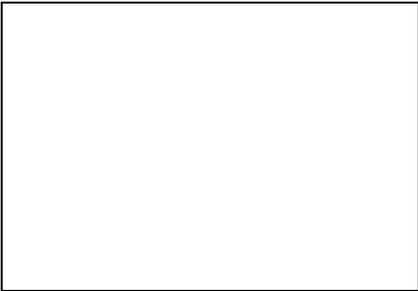
このまちの魅力の一つは「妊娠から乳幼児期まで、核家族・移住者が“安心して頼れる場所と人”があるまち」であり、ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

- ①産後ケア施設の不足(宿泊・通所・訪問型を含む)
- ②一時預かり・病児保育の枠と地域差、受け入れ人数の少なさ
- ③移住者・核家族の孤立(地域に知り合いができてにくい)
- ④子育て支援情報が散らばってアクセスしにくい
- ⑤子育て支援に関わる人材の不足(助産師・保育士・サポーター)

### 【課題解決への取組】

- ①産後ケア施設の不足に対する取組  
→産後ケア機能の拡充  
・利用者の制限(産後の日数、出産医院でのみ対応などの条件)を緩和、宿泊型・通所型・訪問型の産後ケア拠点を市内に増設  
・医療機関、助産院・民間と連携した多様な受け皿づくり  
・利用料助成を拡充し、「産後ケアは贅沢ではない」という明確なメッセージと共に普及、誰でも使いやすくする
- ②一時預かり・病児保育の枠と地域差、受け入れ人数の少なさに対する取組  
→一時預かり・病児保育の拡充  
・市民センターや小規模園・こども園・民間を活用し、市全体の預かり枠を増やす  
・地域偏在を減らし、アクセスしやすい位置に配置  
・子育て支援センター以外もオンライン予約可にし「予約の取りにくさ」を改善
- ③移住者・核家族の孤立に対する取組  
→移住者・核家族が“つながる場”の整備  
・0～2歳親子向け交流会・イベントの定期開催  
・“移住ママ会・パパ会”を立ち上げる  
・子育てサポーターの登録促進&研修強化
- ④子育て支援情報が散らばってアクセスしにくいことに対する取組  
→子育て情報の一本化  
・子育てポータルサイト+LINE連携で情報を一元化(みとっこ子育て支援アプリ)  
・民間を含めた一時預かり空き情報、ファミサポ利用、産後ケア予約、保育施設の検索、相談窓口をまとめる



- ・「どこに相談したら？」がすぐ分かる仕組みの継続
- ⑤子育て支援に関わる人材の不足に対する取組
- 子育て支援人材の確保
- ・保育士・助産師など専門職の処遇改善
- ・ファミサポの報酬・研修体制強化
- ・産後ケア運営体制への支援

備考

- ・“移住者・核家族支援は、産後うつ予防、定住促進、出生数維持、地域活性化の要となる。
- ・小規模から導入し、効果を見ながら段階的に拡大が可能。
- ・将来的には“子育て支援のブランド化” → “子育てサポートが魅力そのものになっているまち”が水戸市の強みになる。

## 【提言5】「すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「すべての子育て世帯が気軽に施設利用ができること」であり、ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

- ・土日祝日や雨天時、猛暑時に子供と安価で過ごせる室内遊戯施設が水戸市内に少ない

### 【課題解決への取組】

- ・「はみんぐぱーく・みと」「わんぱーく・みと」などの子育て支援センターを祝日にも開館し、施設内のホール等を使って室内で体を動かせることを園児や小学生にも広く知らせる
- ・子育て世代向けに、小中学校やリリーアリーナMITOなどの体育館を個人が自由に使用できる日時を設ける（特に夏季）
- ・子育て世代が市民センターを気軽に利用できるように、個室などの施設利用に関しての啓発活動や玩具・遊具類の施設内貸出を行う

### 備考

- ・ひたちなか市の子育て支援センター「ふぁみりこ」は土日のほか祝日も開館しており、乳児だけでなく幼児向けの玩具や遊具を室内外に揃えている
- ・日立市には0～12歳対象の「Hiタッチらんど・ハレニコ！（日立市屋内型子どもの遊び場）」があり、90分ごとの入れ替え制・子供100円大人200円で有料だが土日祝日も開館しており、水戸市民も多数利用している
- ・那珂市の県民の森にある「森のカルチャーセンター」「きのこ博士館」の室内には無料で使える幼児向けの室内遊具がある
- ・笠間市の笠間中央公園には県内初のインクルーシブ遊具が室外に整備されており、水戸市民も多数利用している

水戸市と同様に、県立中央病院や県立こころの医療センターなどがある笠間市では「かさま未来さぼーとぶっく」が導入され、保育園や幼稚園、学校などの入園入学や進級時、児童発達支援や放課後デイサービスの利用時、就職時も含めて継続した支援が受けられるように既に制度も整備されている

※以下、一時的に備考欄に移動してあります。

各市民センターでは子育て広場事業が多く行われ、多数のボランティアが各地で参加している。市民センターで行われている子育て支援事業では、市民センターが週に一度開放され、託児ボランティアが子どもを見ていてくれる。

**【提言6】「自然に寄り添い、人がつながり、学びが尖る都市 — “関係資本で子育てと教育を磨く水戸”」**

**【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】**

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「市民があたたかい気持ちや助け合いの気持ちを持っているまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



**【課題】**

・

**【課題解決への取組】**



備考

## 【提言7】「生涯活躍し続けられるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「誰でも生き生きと活躍できるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

- ・空き家や倉庫を買い上げてリノベーションするため、多額の予算が必要。
- ・予約システムやシフト申込システム、最低限の資格(調理師や美容師、古物商など)の確認システムの構築。→インターネットが苦手な世代でも、簡単に要予約やシフトの申込がしやすいシステムも含む。

### 【課題解決への取組】

- ・譲渡してもらえる物件を探す。
- ・クラウドファンディングを利用して資金を集める。

### 備考

- ・ローラースケートやミニ四駆は競技により会場が劣化してしまうことを理由に会場の貸し出しを断られる心配が無く、競技大会を行うことができます。
- ・得意なお菓子作りを生かしてカフェをやりたい、1日だけ間借り飲食店をやりたい、ハンドメイドや絵画の個展を合同で開きたい、といった「店舗を持つ前段階として、少しだけ挑戦してみたい」といったニーズにこたえることができます。
- ・「緊急下校先施設」には常に大人がいるので、大人が見ているという安全確保が徹底された環境で子どもに待ってもらえることができる。子どもをいったん預けられる場所があるという安心感がある。
- ・いつからでも夢をかなえられる。
- ・体力面や時間を考慮し、自分に合った働き方ができるまち。
- ・結婚や子育てにフォーカスした移住ではなく、一生を通じて「ちょうどいい田舎」で暮らすメリットになりえる。
- ・移住先を考えたときに、「田舎暮らしはあこがれるけど自分に合うか不安」「仕事があるのか」「子供の進学先は制限されないのか」といった様々な理由があると思いますが、試しに1日だけ働いてみたい、1日だけお店を出してみたいなどお試しできる環境があることで水戸市を選択しやすくなる。
- ・「緊急下校先施設」のスタッフもボランティアではなく「仕事」として働いてもらう。無償のボランティアではなく、見返りや報酬があるといった付加価値があること。

## 【提言8】「地域コミュニティを活用したコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「多様な世代の方が住みやすく暮らしやすい街と感じられる水戸」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

・市民センターを活用している年代にバラツキがあり、多世代が使いやすい場として機能していない可能性がある。

### 【課題解決への取組】

・市民センターを多世代が利用しやすい・利用したいと思うような環境整備や仕掛け作りを行い、自然と多世代が利用しやすい場となるように改善していく。

### 備考

- ・核家族化の進行、ライフスタイルの変化等により、町内会・自治会の加入率が大きく低下しており、役員のみならず手不足や地域活動への参加者の減少がある。
- ・2025年4月から「水戸市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」が施行している。

住民同士の交流促進、地域のお祭りや運動会など、清掃活動・資源物回収、地域の清掃活動・ごみ減量リサイクルなど、防災訓練の実施、自主防災組織による防災訓練、緑化推進（公園愛護会）、花壇づくりなど、こどもや高齢者の見守り、こどもや高齢者への声かけなど、防犯灯の維持管理、町内の防犯灯の設置・維持管理、回覧板、「広報みと」の配布、地区や町内のお知らせの回覧や「広報みと」の配布など、行政への連絡・調整、地域の意見・要望の取りまとめなどが町内会単位で行われている場所が多い。

### 【市民センターでの活動】

- ・ **地域コミュニティ活動の支援**：地域住民の活動を支援し、交流の場を提供している。
- ・ **生涯学習講座の開催**：市民向けの様々な生涯学習講座を開講
  - 例：フラワーアレンジメント、写真、囲碁・将棋、歌・コーラス、料理、手芸、茶道、外国語会話、ダンス、体操、パソコンなど。
- ・ **サークル団体の活動拠点**：サークル団体が活動するための部屋を利用。
- ・ **窓口業務**：各種証明書の発行したものを受け取れる。
- ・ **子育て広場の開設**：子育て中の親子の交流と遊びの場の活用。
- ・ **防災拠点機能**：災害時には避難所としての役割を担う。

## 【提言9】「どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境 動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入

このまちの魅力の一つは「市民1人1人が動植物に親しみを持ち、対人間では考えることがなかった考えや気持ちを学ぶことができる環境」「人間社会で日々を必死に生きている市民が少しでも疲れを忘れてリフレッシュできる時間や空間の提供ができる環境」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

### 【課題】

➡提案①：千波湖などの広大な敷地を利用したドッグランを作り、犬同士・飼い主同士が交流できる施設を作り、いままで利用したことのない層の参入を狙う。

➡提案②：Mitorio を利用した室内型ふれあいイベントを定期的に開催し、動物に触れることができる機会を増やし、様々な事情で動物を飼育できない層にも楽しんでほしい。＋イベントを機に中心街への人の流れを誘発し、水戸駅や百貨店などの商業施設での「ついで」利用も増やすきっかけにもなる。

➡提案③：3-1 動物病院代（手術代含む）を水戸市民限定で負担額を減額

3-2 市に申請やペット登録すると助成金・補助金制度※

3-3 捨て猫・捨て犬を見て見ぬふりしなくて済む支援体制を整える

### 【課題解決への取組】

「エ」と同様

↓以下は、一時的に項目オに移動しております。（※今後の展開的に、こちらの項目に該当していきそうなので。）

このようなイベント情報は市の公式 LINE で届くので、それを見て人々はイベントに参加している。

このような情報や制度は市の公式 LINE から発信されている。

犬や猫を保護して動物病院に連れて行ったときにかかる病院代の補助金やペット登録をしたときの助成金制度も市の公式 LINE によって市民に周知されているので、

※現在水戸市では去勢・不妊手術においては申請すれば一頭あたり 3～4000 円の補助金が得られるが、現在の去勢・不妊手術相場は雄雌や病院によって違いはあるものの、平均的に 2 万円～3 万 5000 円ほどかかる。」

◎3-3 について

野良猫・野良犬を増やさないために、保護猫・保護犬を市民の負担なく、安全な環境に預けることができる体制を作る。

動物病院は全国で 13000 院ほどあり、茨城県にも数多くの動物病院がある。それらの動物病院と市や県の動物愛護センターなどの公営施設や民間のボランティア団体などとの連携を強くし、いつでも頼りやすい環境を作ることで、知識が乏しい 1 市民ではどうにも救うことができない命も救うことができる。

すべての提案において懸念される点は、情報や制度が市民に対して伝わらないということである。仮に上記の内容が実現されていても、市民の耳に入らず、利用してくれないことには意味がなくなってしまう。そのため、市の制度やイベント情報の宣伝や告知の仕方を今一度検討し直し、その過程で新たな方法を模索していく必要も出てくると思う。

以前、市民会館で行われたコンサートに行ったが、直前までその催し物が開催されることす

ら知らなかった。(当時はインスタグラムの広告で知った。)  
今の若い世代はデジタル世代で、街中のチラシやポスターなどはあまり見ない人が多いと感じる。さらに、ホームページに関しても本当に用事がない限りわざわざ検索することも少ないため、これらの情報を日常的に見る機会がない。情報がより多くの人の目に留まるように、様々な媒体を介して情報を発信することにさらに力を入れるべきだと考える。

#### 備考

茨城県には複数の植物園や動物園などがあるが、多くが市外であり、これらの交流施設は手薄状態にある。水戸市の偕楽園は、隣接する千波湖には季節の植物や水辺もある。梅まつりや花火大会などの季節のイベントはもちろん、散歩や軽い運動のスポットとしても日常的に利用している人がいる一方、世代に偏りがあるようにも見える。(※提案①)

動物との触れ合いにより、こどもによい効果があることは様々な分野で研究されており、動物との接触によってストレスが低下し、心の安定が得られることや動物飼育が幼児の情緒発達に良好な影響を及ぼすことなどが報告されている。

動物との交流は認知症予防に効果的とも言われており、高齢化が進む現代で、可能な限り心身の健康を維持していくための手段としても活躍できると考える。

#### 動物愛護に関する世論調査(平成22年9月調査) | 世論調査 | 内閣府

内閣府の統計調査によると、好きか嫌いか聞いたところ、「好き」とする者の割合が65.5%「嫌い」とする者の割合が31.7%となっており、次いで家庭でペットを飼っているかどうか聞いたところ、「飼っている」と答えた者の割合が36.6%、「飼っていない」と答えた者の割合が63.4%となっている。

この結果を踏まえて全国的に動物飼育率は37%ほどだが、住居の問題や自身や同居家族のアレルギー問題、年齢など何らかの理由で飼いたくても飼えない人もいることが分かる。(※提案②)

#### 水戸市動物愛護センター(愛称:あにまるつとみと) - 水戸市ホームページ

聞き取りの中では、偕楽園や千波湖、保和苑で行われているイベントの話もお聞きしていましたが、今回の提言では動物系の内容に焦点を絞って作っていった方が、むしろ良さそうな気がしたので、その文はひとまず備考欄に移動してあります。↓

偕楽園や千波湖、保和苑では季節のイベントとして梅まつりや桜まつり、あじさいまつり、花火大会が開催されている。

## 【提言 10】「若者からの魅力度 NO1 のまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「若者が住みたくなるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

- ・空き家問題→高齢化により空き家になった家をどうするか
- ・飲食店の引継ぎ問題→後継のいない歴史ある飲食店を若者が引き継ぐためには

### 【課題解決への取組】

- ①・リノベーションする人または企業の募集
  - ・携わった若者は格安で住める取組
- ②・家賃補助をしながら働ける仕組み
  - ・引き継いだ後の税金補助、家賃補助など

備考

**【提言 11】「偕楽園駅×千波湖イベントの交通連動による「歩いて楽しめる水戸」構想」**

**【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】**

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「新しいものに挑戦、わくわくする、水戸にあるもので皆が自分の可能性を広げられる、既存のもので自由に循環できる」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



**【課題】**

・

**【課題解決への取組】**



備考

## 【提言 12】「市民一人ひとりが推せるまちづくり」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「市民が選び続け、来街者も選びたくなる水戸らしさの明確化」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

・都市としての水戸市の強みや魅力は何かを明確に言語化すること。

### 【課題解決への取組】

水戸市の個性を演出し、水戸市らしい体験ができるあるいは日常が過ごせる機会を作っていく。

例えば千波湖や偕楽園を都市と緑が近接した豊かさがあると読み替えて、都市の緑化を推進したり、水戸藩の歴史を踏まえて歴史的景観づくりをしている三の丸エリアであれば、二の丸の白壁の通りを会場としたイベントを可能にするなど。



### 備考

メモ

テーマ「水戸市が皆から選ばれるまちづくり」について

「皆」とは誰か、何を目的に皆から選ばれる必要があるのか？

「選ばれる」とは何か？居住地として？旅行先として？居住地は選んでいるといえるほど自由度が高いものか、なぜ選ばれているのか、なぜ選ばれていないのか、周辺市町村との関係、居住コストや住宅供給の問題

### 【提言 13】「多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち」

#### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「水戸市に住む若者が仕事もプライベートも楽しめること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



#### 【課題】

・

#### 【課題解決への取組】

・



#### 備考

- ・ 自分に合った仕事をすることで、プライベートを過ごす経済的・時間的余裕ができる
- ・ 自分のしたい仕事ができることで、日々楽しく、充実感を感じながら生活している
- ・ 自分に合った仕事ができることで、経済的・時間的な余裕を持ち、家族と過ごしたり、趣味に没頭したりといったプライベートの時間を楽しんで生活している

## 【提言 14】「若者が住み続けたいと思えるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「年代や家族構成にかかわらずその人らしい生き方ができるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

・

### 【課題解決への取組】



備考

参考：仙台市就職・転職お役立ちポータルサイト <https://sendaidehatarakitai.jp/>

## 【提言 15】「誰もが主役になれるまち」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「誰でも地域に愛着を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

・

### 【課題解決への取組】



備考

## 【提言 16】「定着しやすい街」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・ まちの環境の要旨を記入
- ・ 市民の活動の要旨を記入
- ・ まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「学生から 20 代 30 代の人々が楽しくて活気のあるまち」であり、ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

- ・ 様々な手続きのデジタル化

### 【課題解決への取組】



備考

## 【提言 17】「若者が住み続ける，帰ってくる水戸市」

### 【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・まちの環境の要旨を記入
- ・市民の活動の要旨を記入
- ・まちの魅力の要旨を記入



このまちの魅力の一つは「若者が水戸市に愛着を持ち住み続けたいまち，戻ってきたいまち」であり，ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



### 【課題】

・水戸市ならではの面白さや水戸市でしか体験できないイベントなどの情報に触れる機会が少ない。

### 【課題解決への取組】



### 備考

梅まつり等の水戸ならではの様々なイベントを体験できる